

■児童・生徒の学力の状況

「全国学力・学習状況調査」の結果から
 ○国語の正答率は全国平均・東京都平均より上回っている。領域ごとに見てもほとんどの項目で国や都の平均を上回っているが、「思考力、判断力、表現力等」の「読むこと」のみ都の平均を下回った。
 ○算数は全国平均を上回っているが都の平均をやや下回った。評価の観点の集計結果を見ると、「知識・技能」では東京都と同率であるが、「思考・判断・表現」で都の平均を下回っている。
 ○2教科とも「記述式」の問題形式の正答率が低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○導入時に、その時間のめあてを明確に児童に提示し、自分で考えて課題解決に向かうことのできる授業展開を工夫すること。
 ○児童一人ひとりの考えを書かせ、それを交流する場面をつくることで、自分の考えに自信をもてるようにすること。
 ○めあてに対して児童自身が振り返る時間を設定すること。
 ○読み解く力の育成のため、「めあて・自分の考え・友達の考え・振り返り・まとめ／INPUT→THINK→OUTPUT」という授業の流れを常に意識すること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

1. 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、思考力、判断力、表現力の育成
 - ◆「板橋区授業スタンダード」「志六スタンダード」の共通理解と確実な実施（めあて・自分の考え・友達の考え・振り返り・まとめ／INPUT→THINK→OUTPUT）
 - ◆問題解決型・探究型の授業の実施
 - ◆タブレット端末等の効果的な活用
 - ◆個に応じた指導の充実【少人数指導、IT】【特別支援学級（五組）、ひまわり教室との連携】等
2. 学びに向かう力、人間性等の涵養
 - ◆子どもが「学び続ける」授業の実施（「分かる できる つくる 楽しい授業」）
 - ◆個別最適な学び・協働的な学びの導入
 - ◆特別支援教育の充実（合理的配慮、ユニバーサルデザイン）
 - ◆学習習慣の確立「家庭学習の手引き」
3. 教員の「学び変え続ける」指導力向上（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業革新）
 - ◆国及び都、区独自の学力に関する調査の結果分析（低中高学年ごとの授業改善推進プラン作成）
 - ◆OJTの実施（互いの授業から学ぶ、各種研修、教育会、研究発表・他校種の授業参観を積極的に行い、校内に還元）

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「めあて・自分の考え・友達の考え・振り返り・まとめ／INPUT→THINK→OUTPUT」等の学習の流れを定着する。	○児童の実態を踏まえた「INPUT→THINK→OUTPUT」の効果的な単元の流れを設定する。 ○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって、授業準備を行う。	○各教科等の学びと総合的な学習の時間との横断的な関連を意識した学習活動を工夫する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○年2回の学びのエリア研修会を実施し、4校の教員が各教科等の指導方法や内容について相互理解を図り、9年間を見通した指導を展開し、学びのエリア全体の学力の向上を図り、読み解く力を育成していく。	○学校の教育活動を総合的な学習の時間と教科等横断的な視点で計画し展開する。 ○学校に存在する様々な計画についてPDCAサイクルで取り組んでいき、実際に行う中で修正・改善し、次の単元、来学期、来年度に活用していく。	○校内研究において、「児童が主体的に学ぶ姿を目指した授業づくり～協働的な学びを充実させるための工夫～」を主題として、児童が一人1台端末を活用しながら、主体的に学ぶ態度を育成し、併せて個別最適化・協働的な学びを探っていく。